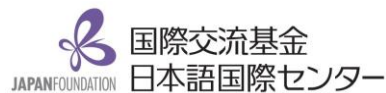


作文の教え方

Unit 1 準備 Part 1 生活の中の「書くこと」



1. はじめに

では、このパートの学習を始めましょう。このコースでは書く力を「書くことを通して、伝えたい情報やメッセージを、読み手に正確に過不足なく伝えられる力」と考えています。

- 私たちは、毎日の生活の中で、「何を使って」「どのような文章（テキスト）」を書いているでしょうか。
- 文章（テキスト）を書く目的は何でしょうか。昔と今で、書く活動にどのような変化が生まれましたでしょうか。

このパートのキーワード

書く力 書く目的 書く活動の種類 産出 やりとり 読み手意識

2. 生活の中の書く活動 1

私たちは、毎日さまざまな種類の文章（テキスト）を書いています。人によって違いますが、例えば①～③のイラストのような活動が考えられます。書き手は、何を使って、何を^{ちが}書いている

でしょうか。何のために書いているのでしょうか。一つ一つ考えてみましょう。



ではいっしょに見ていきましょう。

①ここはどこでしょうか。ここは銀行です。この男の人は、何を使って何を書いていますか。このイラストでは、ペンを使って申込書に名前や住所などを書いています。目的は何でしょうか。

目的は、銀行口座^{こうざ}を作るため。銀行から連絡^{れんらく}をもらったり、資料を送ってもらったりするときの連絡先を教えるためです。

②ここは教室です。この学生は授業中、先生の話^{はなし}を聞いて鉛筆^{えんぴつ}を使ってノートを取っています。ノートをとる目的は何でしょうか。それは大事なことを忘れないため。家に帰ってもう一度読み返すためです。

③ここは大学の研究室です。この先生は論文^{ろんぶん}を書いているのかもしれませんが。昔は紙とペンを使っていましたが、今はほとんどパソコンになっていますね。この先生が論文を書く目的は何でしょうか。それは、研究の成果など、調べてわかったことを多くの人たちに知らせることで

ここまで3つの書く活動を見てきました。まとめるとこの表のようになります。

表1 書く活動の分類1

何を使って(道具)	何を(種類)	何のために(目的)
紙とペン	申込書	連絡をもらうため。
紙とペン	ノート	忘れないため。あとで読みかえすため。
パソコン (紙とペン)	論文、レポート	成果を広く伝えるため。

「書く活動」の特徴に、^{とくちょう}「記録に残せる」そして「音声が届かないところにいる人にも伝えられる」ということがあります。また、書いたものを破ったり捨てたりしなければ、読み手はあとから何回も読み返すことができます。何人もの人が同じものを読むこともできます。1000年たっても昔の作家の詩や小説が楽しめるのは、彼らが書いて残してくれたおかげと言えるでしょう。

もう少し、書く活動を振り返ってみましょう。次の④～⑥の活動についても「何を使って、何を書いているのか、何のために書いているのか」考えてみましょう。



④これはわかりやすいですね。女の方はペンと紙を使って、手紙を書いています。目的は何でしょうか。読み手が友達や家族なら最近あったことを報告しているのかもしれませんが。下の男の方は PC で電子メールを書いて送っているところです。仕事で重要な連絡をしているのかもしれませんが。みなさんは、手紙とメールとどちらをよく使っていますか。おそらくメールなのではないでしょうか。メールができた今、遠く離れた国に住んでいてもすぐに連絡が取れるようになりました。

⑤上の方は、日記を書いています。下の方は PC でブログを書いています。どちらも自分の経験したことや考えたこと・感じたことを忘れないために記録しています。日記もブログも似ているところが多いですが、ブログは他の人が読めるよう公開しているところに大きな違いがあります。

⑥これは何でしょうか。スマートフォンです。離れているとき、以前なら電話で話すしかありませんでしたが、今はスマートフォンや PC に入力することで、書いておしゃべりするコミュニケーションもかなり一般的になってきました。チャットは、遠くにいる人同士が文字を使って近況報告や雑談^{ざつだん}、簡単な相談をするのによく使いますね。絵文字を使って、文字では表せない感情を補足^{とくちょう}するのも特徴です。

ここで考えた「書く活動」をまとめると、この表のようになります。

表2 書く活動の分類2

何を使って(道具)	何を書く(種類)	何のため(目的)
紙とペン、パソコン	手紙、メール	個人の場合、近況や気持ちを伝えたり聞いたりするため。 仕事の場合、情報を伝えたり聞いたりするため。
紙とペン、スマートフォンやパソコン	日記、ブログ	考えたことや経験したことを記録するため。
スマートフォン(タブレット、パソコン)	Facebook、LINEなどのソーシャルメディア	おしゃべりや相談、情報交換のため。自分の経験や気持ちを伝えたり聞いたりするため。

通信技術が進んだ今、「書く活動」に変化が生じました。それは、スマートフォンやパソコンで書くことが多くなったこと、書いたものが「遠くまで」「広い範囲に」「^{はんい}すぐに」届くようになったことです。このような変化が生じた結果、「話す活動」と「書く活動」との間の差が^{ちぢ}縮まりました。

【タスク1】 自身の一日の書く活動をふりかえってみましょう。①～⑥以外の活動があったら、「何を使って(道具)」「何を(種類)」「何のために(目的)」書いたか、表にまとめてみましょう。

何を使って(道具)	何を(種類)	何のために(目的)

3. JF スタンドで考える「書く活動」の種類

次に、「書く活動」を JF スタンドで考えてみましょう。

JF 日本語教育スタンダード
JF スタンダードの木

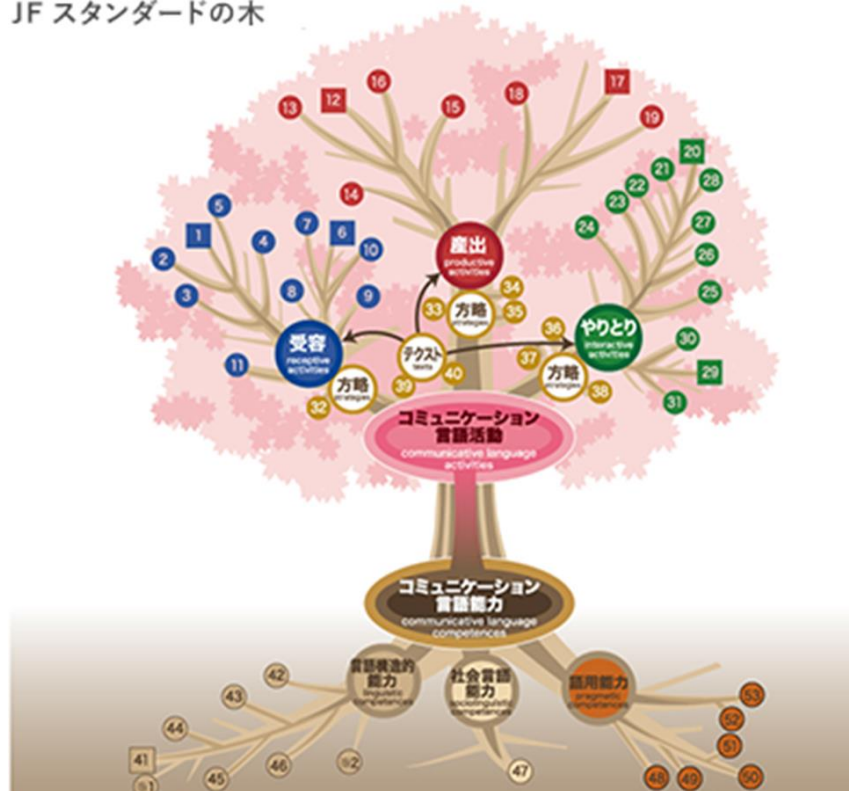


図1 JF 日本語教育スタンダードの木

スタンダードの木には、ピンクの花の部分と、茶色の根の部分がありますが、ピンクの部分は「言語を使ったコミュニケーション」、茶色の部分は「コミュニケーションを支える言語に関する知識」を表しています。書く活動は、ピンクの部分に含まれ、赤い色の部分の「産出」と、緑の部分の「やりとり」に大きく分かります。

「産出」は、書き手が一人かそれ以上の読み手に向けて書く活動を指します。小説や論文、新聞やポスターなどは産出に含まれます。それに対して、「やりとり」は、書き手が特定の一人かそれ以上の読み手に向けて書く活動を指します。手紙は代表的なやりとりの書く活動です。書き手が手紙を書いて送ったら、受け取った人は、読んだあと何らかの反応を返します。こ

のように、誰に向かって書いているのか、読んでからの読み手の反応があるかないかで、書く活動は大きく2つに分けられます。

表3 「産出」と「やりとり」

産出 書き手が、一人かそれ以上の読み手にむけて書く	17	書くこと全般 書くことに関する全般的な記述。 [CEFR: overall written production]
	18	創作文 自分が経験したこと、知っていること、物語などを書く。 [CEFR: creative writing]
	19	レポートや記事 情報をまとめて、レポート、報告書や記事などを書く。 [CEFR: reports and essays]
やりとり 書き手が、一人かそれ以上の読み手にむけて書く。読み手は読んだあと何か反応を返す。	29	文書でのやりとり全般 文書を使ったやりとりに関する全般的な記述。 [CEFR: overall written interaction]
	30	通信 手紙やメールのやりとりをする 手紙、ファックス、メールなどでやりとりをする。 [CEFR: correspondence]
	31	申請書類や伝言 申請書類やアンケートなど、提示された書式に応じて記入したり、伝言メモを書いたりする。 [CEFR: notes, messages & forms]

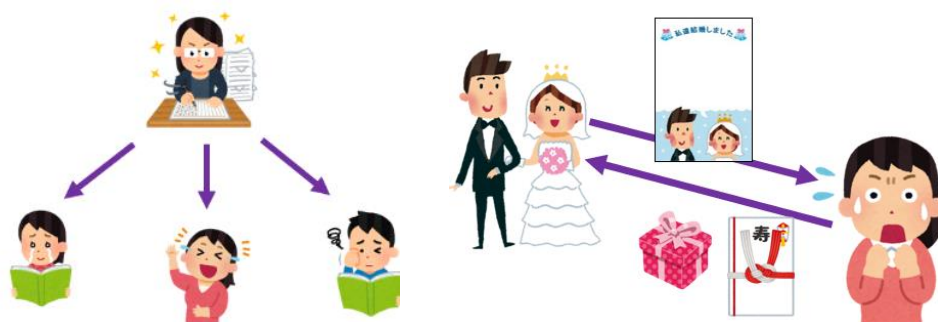


図2 産出とやりとりのイメージ

【タスク2】 書く活動①③④⑤⑥が JF スタンドールの木のどこにあたるか考えてみましょう。

4. 書くときに大切なこと

このパートの最後に、「産出」「やりとり」どちらにも大切なことを確認しておきたいと思います。ここに2つの文章（テキスト）があります。この文章（テキスト）は、どちらが日記で、どちらがブログだと思いますか。そう思う理由は何ですか。考えてみてください。

文章A

○月○日(○)くもり

9:30 のぞみ123号に乗る。車内ガラガラ。
11:00 京都着 バスで清水寺へ。
11:30 清水寺 人が少ない。
写真はたくさんとれた。
くもり空だったのが残念。



文章B

○月○日(○)☁

京都旅行に行ってきました！
京都には新幹線で行きました。
(当たり前ですね！)。
9:30発の「のぞみ」は人が少なくてガラガラ。
座席でゆっくり足が伸ばせました(*^▽^*)
京都についたらすぐ、バスで清水寺へ行きました。
こんなに人が少ない清水寺は初めて！
たくさん写真がとれました♪
でも空はくもり(T T) あーあ、ざんねーん！

—読み手意識—

- 知識がない人が読んでも内容を理解できるか。読み手が知りたい情報が含まれているか。
- わかりやすい流れで書いているか。
- 想定した読み手に合った適切な表現、文体を使って書いているか。

どうでしょうか。正解は、文章 A が「日記」、文章 B が「ブログ」です。そう思った理由は何でしょうか。日記とブログの大きな違いは、「誰を^{ちが}読み手に想定して書いているか」です。日記は自分が読むものですから、最小限のことだけ書けば目的は達成できます。それに対して、ブログは公開が^{ぜんてい}前提ですから、世界中にいる知らない人たちが読み手で、その人たちにメッセージを伝えることが目的です。そのため、文章は、読み手が知りたい内容が入っていること、わかりやすい流れで書いていること、適切な表現や文体を使って失礼でない書き方をしていることが大切です。読み手を意識して書くことを、「読み手意識」と言います。

【タスク3】文章 A、文章 B の内容を利用して、あまり親しくない日本人の知り合いを読み手として意識してメールを書いてください。

〇〇さん

こんにちは。寒い日が続きますが、お変わりありませんか。3連休はどのようにお過ごしだったでしょうか。

またご連絡します。どうぞお元気で。

5. まとめ

このパートをまとめます。

- 私たちは、毎日の生活の中で、さまざまな文章（テキスト）を書いています。たとえば、メモ、日記、ブログ、メール、チャットなどです。
- 文章（テキスト）を書く目的は、忘れない（消えない）ように記録すること、音声が届かないところにいる人に情報やメッセージを残すことなどです。

● 通信技術が進んだことで、書いたものが「遠くまで」「広い範囲に」「すぐに」届くようになりました。また、「話す活動」と「書く活動」の差が小さくなってきました。

● JF スタンドードを使って分類すると、書く活動は「産出」「やりとり」に分けられます。

「産出」と「やりとり」の違いは、「読み手が読んだあと反応を返すかどうか」で分かります。

● 書き手は読み手を意識して文章（テキスト）を書く必要があります。

■ このパートの参考文献と参考サイト

- 国際交流基金（2010）『書くことを教える』（国際交流基金 日本語教授法シリーズ8）

ひつじ書房

- 「JF 日本語教育スタンダード」 <https://www.jfstandard.jp/jp>

■ タスクの答え

【タスク 1】解答例

何を使って（道具）	何を（種類）	何のために（目的）
紙とペン	自分のメモ	聞いたことを忘れないため。
紙とペン	メッセージを書いたメモ	会えなかった人にメッセージを残すため。
パソコン	Zoom のチャット機能	離れた場所にいる人にコメントや質問するため。
スマートフォン	ツイッター	今の気持ちを伝えるため。今の状況を知らせるため。

【タスク2】

- ①31「申請書類や伝言を書く」 ③19「レポートや記事を書く」 ④30「通信」
⑤18「創作文」 ⑥30「通信」

②は、「先生の話聞いて(または黒板の文字を読んで)書く」という2つの活動をしています。

これは「テキスト」という別カテゴリの、39「ノート取り」という活動に含まれます。このコースでは「テキスト」は扱わないため、除外しました。

【タスク3】解答例

〇〇さん

こんにちは。寒い日が続きますが、お変わりありませんか。3連休はどのようにお過ごしだったでしょうか。

私は、連休を利用して新幹線で京都に行ってきました。9:30 発の「のぞみ」に乗ったのですが、人が少なく、座席でゆっくり足が伸ばせて良かったです。京都についたらすぐ、バスで清水寺に行きました。清水寺も人が少なかったので、たくさん写真がとれました。空がくもっていたのが残念でしたが、いい連休になりました。

またご連絡します。どうぞお元気で。